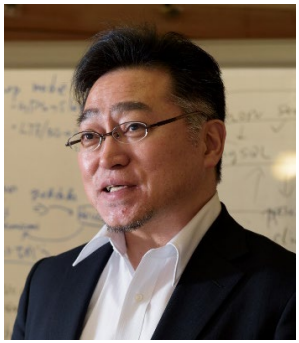


地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	かさい じゅん	
氏名	葛西 純	
所属・役職	株式会社フォルテ代表取締役 青森県情報化アドバイザー	
活動拠点	東北地方（青森県）を中心に活動中。 特に最近は、東北・北海道の広域エリアで、地域情報化に携わってきた。	
略歴	<p>1983年4月 東日本電信電話公社 入社</p> <p>2011年3月 有限会社 forte 取締役社長 就任</p> <p>2012年6月 総務省地域情報化アドバイザー・ICT 地域マネージャー委嘱</p> <p>2014年4月 青森市地域温暖化対策地域協議会 委員委嘱</p> <p>2014年4月 弘前市弘前型スマートシティ懇談会 委員委嘱</p> <p>2016年1月 株式会社フォルテ代表取締役社長 就任</p> <p>2016年3月 国立大学法人弘前大学 非常勤講師 委嘱</p> <p>2016年6月 とうほく自動車産業集積連携会議 常任幹事</p> <p>2018年5月 青森県自動車関連産業振興協議会 副会長</p> <p>2018年5月 あおもり ICT 利活用推進プラン検討委員会 副委員長</p>	
地域情報化の 専門分野・技術	<p>専門分野は、地方都市における IoT 技術を活用した地域活性化・観光促進。 専門技術は、IoT 通信技術、センサーネットワーク技術、高精度位置測位技術、音声認識技術、画像認識技術、ビッグデータ・AI 解析 等。</p>	
自治体向け メッセージ	<p>地方都市は豊かな資源がある一方で、人口密度が薄くエリアが広大なため、二次交通のコストの高さと利便性の悪さが課題です。また、内閣府の今年の調査によれば、日本の人口が 2008 年をピークに減少する一方で、東京圏以外の地方の若者人口が過去 15 年間で 3 割も減少しており、地方消滅の危機が提唱されています。各地方では、「I ターン」「U ターン」「J ターン」施策や移住施策等にご尽力されていることと推察します。</p> <p>この現状に対して、私が注目するのは、安心安全・歴史・文化・食・自然の体験を求めて世界中から遠路はるばる来日し、ゴールデンルートでなく地方へ訪問するインバウンド観光客です。ここに、地方の課題解決のチャンスがあると思います。今後も、新たな価値観を持って地域課題解決に臨み、その土地ならではの地方創生に向けてご支援できればと思います。</p>	
関連 URL	<p>http://www.forte-inc.jp</p> <p>https://www.facebook.com/jun.key9</p>	

地域情報化に関する実績	<p>これまでの経験業務・研究活動</p> <p>IoT 製品の先駆けとして、自転車×インターネットをテーマとしたナビガイド端末「ナビチャリ」をリリースしました。以降は、リアルタイムでの位置情報測位に特化した IoT 端末開発「FB シリーズ」、移動中に安全に音声情報を取得できる骨伝導ヘッドセット「VOCE-rable シリーズ」を研究開発しました。</p> <p>ナビチャリ及び VOCE-rable シリーズは、自治体や観光事業者が抱える「コンテンツ化した観光ガイド情報の発信」等のニーズに対応できます。この製品を通じて地域情報の積極的な発信を促し、地方都市の 6 次産業化、地域内の資金循環及び地域外からの資金流入増加に貢献します。</p> <p>FB シリーズは、移動体の管理等に役立つ mono 端末と高齢者や作業員の状況把握等に役立つ hito 端末があります。両製品は、位置情報をリアルタイムでサーバーに蓄積できるため、地方都市が抱える「二次交通の運行状況把握・ルート最適化による利便性向上・経費削減」「独居老人の緊急時早期対応」等のニーズに対応できます。これらの製品を通じて地域情報の地域内・地域間共有化を図り、あらゆる世代がより快適に生活できる街づくりに貢献します。</p>
	<p>これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト</p> <p>■ 情報発信システム・地域ポータルサイト</p> <p>2008年 青森市地域 ICT 利活用モデル構築事業</p> <p>2009年 青森県ユビキタス情報提供モデルシステム展開・整備活用事業 八戸地域 ICT 利活用モデル構築事業</p> <p>2018年 あおもり ICT 利活用推進プラン検討委員会</p> <p>2018年 青函活性化ファンドプロジェクト (地域密着型シェアリングエコノミー基盤、多言語課題解決基盤の構築)</p> <p>■ 移動体通信システム</p> <p>2011年 国立大学法人岩手大学と共同研究 地方独立行政法人青森県産業技術センターと共同研究</p> <p>2012年 第 9 回リエゾン-I 研究開発事業化育成資金 JST 復興促進プログラム (マッチング促進) 可能性試験事業</p> <p>2017年 準天頂衛星みちびき、LPWA 等新技術を活用した IOT 端末の研究開発</p> <p>■ ICT を活用した二次交通</p> <p>2012年 弘前市スマートシティ PR 共同研究事業</p> <p>2017年 鳥取県観光モビリティ研究会 参画</p> <p>2017年 鳥取県のジオコムス実証実験プロジェクト 参画 http://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/0/EBBEA6BCD87FBE76492581860004811F?OpenDocument</p> <p>2018年 青函活性化プロジェクト (Smart Access Vehicle による二次交通課題解決)</p> <p>2018年 サイクルツーリズム促進プロジェクト。大会運営支援システムの研究開発</p>